

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/09/12 ～2017/09/30)

1. 勉学の状況

18日から授業が始まり、登録期間が始まるまでの二週間は様々な授業に参加して回りました。私は翻訳の勉強がしたくて留学にきたのですが、翻訳の勉強をするためには使用する言語を母語並みにマスターしている必要があり、今の私のレベルでは取りたい授業が取れません。他にもたくさん興味のある授業があり、それぞれの授業が終わるたびに教授に個人的に話をしにいくのですが、全員が「よっぽど努力しないと君には難しいだろう」とおっしゃります。何度も時間割を組み直したうえ、「Fundamentos para la traducción primera lengua extranjera: inglés (翻訳の基礎：英語)」「Literatura Española del siglo XX (20世紀のスペイン文学)」「Gramatica para la enseñanza del español II (スペイン語文法2)」を履修予定です。日本語を扱う翻訳のクラスは実践的なものしかないので、英語の翻訳を通してまずは翻訳の基礎を理論から学ぶつもりです。本を読むことは語彙力の向上にもつながり、さらに千葉大での三年次論文にも関係しているのでスペイン文学の授業を選びました。さらにこれらとは別に、日本語の同時通訳の授業にたまにボランティアとして参加しています。主に私が日本語を話し、生徒がそれをスペイン語に同時通訳するのですが、自分が正しい日本語を使えているのか実は自信がないときもあります。そのほか、大学の授業の合間を縫って公立の語学学校にも通い、語学力向上に役立てます。

2. 生活の状況

私は大学の寮に申請しましたが入ることができなかったので、アパートで三人暮らしをしています。フラットメイトの一人は千葉大から一緒に留学に来た学生、もう一人はモロッコ出身の、大学一年生の女の子です。彼女が家にいるときは、基本全員がスペイン語で会話します。キッチンや浴室は共同ですが、寝るときや勉強するときは各自の部屋にいますので、程よい距離感かなと思います。スペインでの生活を始めたばかりなので、毎日とても忙しいです。いろいろな大事な登録や手続きをするために今が一番語学力を必要としているのに、一番語学力が足りない時期でもあるので、悔しい思いやもどかしい思いをすることもあります。

友人は徐々に増えていっています。大学の授業で会った友達、学外のカフェで行われる語学交流で仲良くなった友達、いろいろな繋がりを大事にして友人の輪を広げていきたいです。休日は主に彼らと外出したり食事をしたりしています。歴史あるサラマンカ大学周辺は観光客も学生も多く、みんなが日の光を浴びてそれぞれの時間を楽しんでおり、とても良い環境です。ただ、一日の気温差は激しいです。朝は15℃以下くらいなのに、日中は30℃にも上ります。空気もとても乾燥しています。ストレスや不安も多い時期だと自覚しているので、体調管理には常に気を遣うよう心がけています。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/10/01～2017/10/31)

1. 勉学の状況

私は翻訳学部の授業を一つ、文献学部の授業を二つ取っており、その他に語学学校は月から木曜日各二時間、週によっては金曜日もあります。さらに、文献学部のマスターの生徒による文法の無料の授業にも登録しました。その授業は、「文献学部の生徒のための授業」と告知しており、翻訳学部在籍する私もその授業に参加したかったので、個別にメールで問い合わせさせて私にも参加できるのか確認したところ、「文献学部の授業を履修しているなら問題ない」との返信が得られ、ほっとしました。すぐに諦めずに個別に対応を求めると意外とすんなりと受け入れられることもあるので、まずはダメ元でも自分からアクションを取ってみる癖をつけようと思います。文法の授業は比較的理解しやすいです。日本での学習が役に立っています。スペイン文学の授業では教授の話し方が少し聞き取りにくく難しい単語がたくさん出てくるのですぐには理解できません。文学の歴史だけでなくそれぞれの本の内容（存在論など）も扱うので本当に難しいです。ハンドアウトが配られるので家でじっくり読んで理解に努めていますが、プリントに載っていない情報もたくさんあるので、授業中になるべく多くを聞き取ろうと努力しています。もう一つの大学の授業「翻訳の基礎：英語」の内容が一番興味深いです。翻訳者の葛藤やそれをどう克服するのかを、自分たちならどうするかを想像して考えます。科目名にこだわらず、翻訳とは何かという一般的な概念を扱っているので、日本語の翻訳にも応用しやすいと考えています。語学学校は10人程度の少人数の授業で、リアルな日常会話の表現を主に学んでいます。こちらの生徒は発言数が多く、教師がそれに答えて授業が発展していく形を取るなので、私も早く授業の発展に貢献できるようになりたいと毎回思います。

2. 生活の状況

先月は正直毎日疲弊していましたが、今月は体調が良い日が多くなりました。ストレス発散のために、家でDVDを見たり雑貨店で買い物をしたりします。また、大学でピラティスのクラスに申し込みました。体を動かすことと友人をつくるのが目的だったのですが、そのクラスは地域の方も参加するオープンなクラスということもあり、クラスメイトのほとんどが年配の女性方でした。まくしたてるようにひたすら話し続けるのでなかなか彼女たちの世間話に入っていけませんが、幅広い年齢層の友達ができるときっと面白いので頑張って輪に入ってみようと思います。先月はたくさんの人と知り合いましたが、今月はそれに加え特定の人との仲がより深まりました。モロッコ人のルームメイトにアラビア語（特にモロッコの言葉）を教えてもらったり、私たちが日本語を教えたりと家の中での会話も増えました。さらに、渡航前にサラマンカ大学から届いたメールで申し込んでいた Buddy Program のパートナーの女の子と初めて会いました。彼女に携

携帯電話やアパートなど生活で困ったことを相談すると親身になって解決策を考えてくれます。彼女だけでなく、友達みんなが親切です。また、パーティーで騒ぐのが大好き、という友人が「良い成績を取りたいから今日は早く帰るね」と言ったときは驚きました。遊ぶのも勉強するのも全力なこちらの生徒にとっても感心しています。先日、友人と3人で芸術についてや今話題のカタルーニャ地方の独立問題について熱く議論したことが刺激的でした。私はたまに口をはさむ程度でしたが、彼らが政治や芸術についての十分な知識としっかりとした自分の考えを持っていることが伝わり、私もただ勉強するだけでなく教養を深めようと思うきっかけになりました。このように、私の周りには尊敬する友人がたくさんいます。自身の語学力については、以前は話したくても伝える自信がなく言葉を飲み込んでしまう場面もありましたが、今は言いたいことを、頭の中でうまく形にしていなくてもとりあえず話し始めるようになりました。大体の人は私が言葉を絞り出すのを待っていてくれます。しかし一か月以上スペインに滞在してみて、自分の語学力が期待していたほどのレベルには到達していないと感じているのでもっと努力する必要があります。授業中は単語一つ一つを聞き取ることができても、まだ語彙力が無いせいでその単語が何を意味するのか分からない場面が多くあります。今の課題はボキャブラリーを増やしつつももっとスムーズに話せるようになることです。11月上旬にはもう中間テストがあり、テスト勉強、個人で行うプレゼンの準備、語学学校の宿題、とやることが多く一つ一つの負担も大きいので息ができなくなりそうですが深呼吸をして頑張りたいです。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/11/01～2017/11/30)

1. 勉学の状況

今月8日に、「20世紀のスペイン文学」の授業の中間テストがありました。全体の評価の20%を占めます。テストの前の週に友達と集まって勉強したり、過去問の写真をもらって問題形式を把握したりしました。著者名、本や詩のタイトルに加えて筆者のコンセプトやその時代の文学の特徴、詩に出てくるシンボルの意味や引用文の穴埋めなど幅広く出題されるので時間をかけて勉強をしました。その結果、思ったよりもいい点数が取れてほっとしています。1月の期末試験は6割を占めるうえ、今度は個人の意見や作品の分析を文章にして答えないといけないので、近くなってから焦らないように、今から日々復習をしておこうと思います。ただ、授業内容はとても興味深く、その中で特に掘り下げたいことを千葉大での三年次論文のテーマにしました。自分が気になっていることを研究できているということは、とても嬉しいことです。

また、翻訳の授業は前期の前半だけに開講される科目だったので、今月からは授業が一つ分、少なくなりました。その授業での課題は1月に提出することになっており、三年次論文の締め切り日と近いので、もう手をつけ始めました。その課題の中で、私はオバマ氏の演説のスペイン語翻訳と英語原文を読み比べる予定です。スペイン語で10～15ページの論文を要求されており、内容も論文の書き方もとても難しいですが、先生や友達の助けを借りながら、妥協せずに良い論文を完成させたいです。納得のいく論文を完成させられたら、自分のスペイン語力にも自信がつくのではないかと思います。

論文を書くために参考文献を読んでいるのですが、分からない単語を辞書で引きながら何十ページも読んでいくのは骨が折れる作業です。私が利用する図書館では貸出期間がたったの一週間で、私が一週間で本を読み切ることは到底不可能なのですが、予約が入っていない限りは何度も貸し出しを延長できるので助かっています。図書館と言えば、本がアルファベット順に並んでいないので目当ての本を探すのにとっても時間がかかります。こういうところがスペインらしいなあと思います。

2. 生活の状況

寒さが増すにつれて、個人的に、今まで以上に日本の湯船が恋しくなってきました。こちらでは多くの人にお風呂に浸かる習慣がなく、私のアパートにもバスタブがありません。どんなに寒い日でもシャワーしか浴びられないのは物足りません。

基本的に、平日は語学学校や大学、図書館に行き夜に友達と外出する日もあります。今月の週末は主に家にいて、家族と電話したり、来月の旅行の計画や予約をしたり、スーパーに食糧を買いに行ったり、たまに友達とランチしたりとゆったり過ごしました。日本の大学生は週末に出か

けることが多いですが、こちらでは日曜日は家にいてゆっくり休む人が多いようです。ただ私の場合、家にいて自分の部屋にいとスペイン語を話す機会がないので、なるべく家に閉じこもらないで外に出ようと思っています。家にいて勉強しているとき、勉強に集中しないといけないのに、旅行の手配を早くしないとチケットがどんどん値上がりすると思うとそちらも気になり、また少し先に控えている他のテストや課題の提出のことも心配になったりと一気にたくさんのことを考えてしまいます。優先順位をつけて一つずつこなしていこうと思っても、なかなか難しいです。

こちらの生活で一番楽しいことは、やはり友達と過ごすことです。私の周りの友達はみんな、ふざけて面白い話もするし、自分の国の歴史や政治の話を真面目に語ったりもするし、一言で言ってしまうととても賢いのが伝わってきます。またとても優しく、いつも励ましてくれます。その日の出来事で悲しいことがあって友達に早速教えたとき「まあそういうもんだよね」と言われて、私が悲観的になりすぎていたんだと気づくことがありました。こちらの人の考え方に触れながら改めて物事を考え直してみると、違った捉え方が見えてくる場合があります。スペインにいるということを利用して、視野をより広く持てるようになればいいなと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/12/01～2017/12/31)

1. 勉学の状況

今月もテストが一つありました。スペイン語の文法を外国人学習者にどのように教えるのかという授業のテストです。教授は特に寛容な方で、授業の題材、メモ、辞書、全て持ち込み可でした。文章中の4つのフレーズに下線が引かれ、それらを文法的に説明するという内容でした。与えられた時間は二時間だったのですが、先生が事前に高得点を狙うためのポイントとしておっしゃっていた、例文の提示や発展させたもの（例えば、今回の文では直説法なのでこのようになるが、接続法だった場合はこうなる、などの説明）まで含めて全て説明するのは二時間では足りなかったです。試験開始時に一人二枚ずつほぼ白紙の解答用紙が渡され、紙が足りなくなって次の紙が欲しい人は挙手をして先生が渡しに来てくださるというシステムだったのですが、私は一枚しか追加でもらっていないのに、前の席の生徒が6, 7枚ほど紙を追加でもらっていたので、自分の説明が不十分なのではないかと何度も不安になりました。でも、制限時間いっぱい使って書けるだけ書いたので、あとは結果を待つのみです。

一月中に提出する論文が3つあるのですが、正直どれもはかどっていません。一つは「20世紀のスペイン文学」の授業の自由課題で私はスペインでのウルトライスモの誕生の歴史をまとめようと思っています。一つは翻訳の授業の課題、もう一つは千葉大での三年次論文です。参考文献を探して読むだけで相当時間がかかるので焦っています。一月は大学の授業はなく、テスト勉強にあてる時間になるようなので、毎日自分に厳しく生活して課題を完成させたいです。

2. 生活の状況

休暇を使って今月は二回、外国に旅行に行きました。イタリアでは、私がスペイン語を話して彼らはイタリア語を話して意思疎通が出来ていたのが面白かったです。中学校で英語を学び始め、大学でスペイン語を学び始め、今では当たり前のように感じてしまっていますが、最初の頃は外国語を使って外国人とコミュニケーションが取れた時はものすごく嬉しかったのを、イタリアのこの体験を通して思い出しました。そして、もっとこれからも語学力を磨こうと改めて思いました。語学力と言えば、少し落ち込んだ出来事もありました。クリスマス休暇にドイツとスイスに行ったのですが、そこではスペイン語が通じる可能性が低く、英語を使わなければなりません。スペインに来る前、英語は得意な方だったのですが、スペインで生活して毎日スペイン語を使っているのも頭がスペイン語の脳になりつつあると感じています。ですので、現地で英語を話すのに苦労しました。リスニングはできても、思い浮かんだことを話そうとするとつい、スペイン語が出てきてしまいます。それはそれでスペイン語が上達したという嬉しいことなのですが、中学校から何年もかけて勉強したせっかくの英語を忘れないで維持したいのと思いました。そ

れでも、旅先で偶然会話をした相手がたまたまスペイン語話者で、スペイン語で会話が弾んでそのまま移動中の船でずっとおしゃべりするなど、言語を話せると世界がもっと広がるのだと改めて感じた良い旅行でした。

大晦日は、スペイン人の友達の家を集まってサラマンカで過ごしました。友達がスペイン料理やドミニカ料理を振る舞ってくれ、私ともう一人の日本人の友達は、年越しそばを作って振る舞いました。とても豪華な食事でした。そして年が明ける瞬間は、テレビの前にみんなで座ってマドリードの広場の中継を見ながら、12回の鐘の音に合わせてブドウ12粒を食べました。これは新しい一年の12か月分の幸福を祈っての文化だそうです。食べ終わってからはみんなでハグをし合い、スパークリングワインのカバで乾杯をし、とても楽しく新年を迎えられました。いつも私を楽しませてくれる友達に感謝しています。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/01/01～2018/01/31)

1. 勉学の状況

今月はテスト期間だったため、長期休暇が明けてからもずっと大学のクラスはありませんでした。今月は、千葉大学の三年次論文、翻訳のクラスの論文、スペイン文学のクラスのレポートとそのクラスの期末テスト、語学学校の期末試験がありました。私は日本にいるときから図書館で勉強がはかどるタイプなので、ほぼ毎日図書館に通ってました。サラマンカには図書館がたくさんあります。町の中心に5つほどある公立図書館のほかにサラマンカ大学の各学部も図書館を持っていて、その学部の分野に特化して本を揃えています。中にはテスト期間中、24時間開館している場所もあります。

課題を進めるために参考文献はかなり読んだと思います。最初の頃は知らない単語が出てくたびに投げ出したくなっていましたが、最近ではいちいち知らない単語にあまり気を取られずに、文章全体の流れを頭で考えながら読むことができるようになりました。それでもやはり、長文読解、特に研究論文など内容が複雑な文章を読むのには相当根気が要りました。少しずつでも進めるために、知らない単語を一通り調べた後、段落ごとに番号を振り各段落の要点を日本語かスペイン語か英語で自分が分かりやすいようにメモをし、最後にそれらのメモを最初から最後まで読んで全体の流れをつかむという自分なりの方法で取り組んでいました。今は全ての課題を終わらせましたがどの課題も正直、「もっと時間があればここを掘り下げてもっと発展させられたのに」と思わずにはいられません。最終的には時間に追われて完成させた課題もあるので、先月など暇な時間があったときにもっと課題を進めておけばよかったと後悔したときもありましたが、暇な時間とはいっても何もしていなかった訳ではなく、スペイン人の友達と遊んだり家でルームメイトとおしゃべりをしたり、そうやって身に着く語学の方が実用的なので、無駄な時間ではなかったと自分に言い聞かせて心を切り替えていました。

2. 生活の状況

課題やテスト勉強で精一杯の日々でも、精神的に追い込まれたときはほとんどありませんでした。家でご飯を食べるときはルームメイトと一緒にテレビを見ながら思いっきり笑ったり、図書館から語学学校に向かう途中においしいパン屋を発見してそこに通ったり、私はクラシック音楽も趣味なのですが、サラマンカで開催された無料のピアノやオーケストラのコンサートに足を運んだり、ふと思いついて何のお祝いもない日にケーキを自分のために買って帰り家で食べたり、友達と週末の朝からサラマンカの果てまで散歩をして普段遠くに見えていた小さな山のような丘に登って街を見渡したり、気分転換になることが身の回りにたくさんあったからだと思います。また、サラマンカの冬は寒いと聞いていましたが、今月は天気が良くて暖かい日が多く、さらに、

サラマンカの美しい街並みは歩いているだけで穏やかな気持ちになります。このようなことのおかげで、特にストレスを感じすぎずに勉強だらけの今月を乗り越えられたのだろうと思っています。

私は最近、以前に比べてだいぶ街に馴染んできたと感じています。例えば上で述べたようにおいしい行きつけのパン屋ができたり、割引がある曜日によく行くハンバーガー店でカスタマイズをするようになったり、美容院で隣に座っていたお話好きの奥さんとおしゃべりしたり、というようなことです。先月旅行先から帰ってきたときも「ここが今の私の居場所だ」と感じたのを覚えています。最初サラマンカに来てすぐの頃は自分が外国人であるということを意識しすぎて疎外感を感じた時もありましたが、今となってはこの町はとても居心地の良い場所となっています。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/02/01～2018/02/28)

1. 勉学の状況

第二セメスターがスタートしました。私が取る今期の授業は「traducción audiovisual-ingles (視覚資料の翻訳、英語)」という翻訳学部での授業、「historia de filosofía (哲学の歴史)」は clases transversales と呼んで本来他学部で開講されている科目が文献学部の生徒向けにも行われているもの、「introducción a la poesía española (スペインの詩の入門)」の三つの授業に加えて、「traducción directa segunda lengua japonés (翻訳、日本語)」の授業に聴講として参加します。さらに、前期から通っている語学学校は無事前期のテストに合格したのでレベルが一つ上がり、いよいよ上級編です。そして同じく前期も受けていた、文献学部のマスターの生徒による文法の授業にも参加します。合計6つの授業です。

視覚資料の翻訳とは主に、英語の漫画や映画をスペイン語に訳す練習の授業です。授業に参加するにあたり、授業に付いていく語学力があるかどうかを測るための、抜き打ちの英語とスペイン語のテストがありました。不安でしたが結果としては合格し、教授に受け入れてもらうことができました。パソコンのソフトを使って映像に字幕を付けていくのですが、一秒間に人が読める字数の制限、一行に入れられる文字数などの影響を受けるのでオリジナルの文章を凝縮、要約する技術が必要とされます。また漫画の翻訳に関して先日考えさせられた問題を一つ紹介すると、“it's raining cats and dogs.”という英文がありました。一見スペイン語で土砂降りを意味する文章に翻訳すればよいように思えますが、イラストでは言葉遊びとして本当に猫と犬が空から降っているため、そう簡単にはいきません。漫画の翻訳の場合は先にイラストが決まっているのでその問題をどう乗り越えるかがとても難しいです。本当は日本語、スペイン語間の翻訳の授業を取りたかったのですが、実際に授業の様子を見に行くと「翻訳をするためにまずは日本語力を身につけましょう」という内容だったので日本人の私向けではなく、唯一存在する本格的に翻訳をする授業は通年のものでシステム上登録できないので、聴講することにしました。授業中は日本人として日本語や日本の文化に関する知識を皆（とは言っても全体で4、5人なのですが）の前でスペイン語で説明する機会が多く、日本人なのに答えられないことがあるととても恥ずかしいのでいつでも気が抜けません。他の授業については、哲学はずっと興味がある学問であり、歴史を感じる校舎で昔の人々の考えについて考察するのはわくわくします。ただ、内容が抽象的で理解しにくいときがあるので授業内容は難しいです。スペインの詩の授業は、私の卒業論文のテーマに関係があるので取ることにしました。この授業の女性の教授はよく、恋愛がテーマのロマンチックな詩を取り扱います。ですので、決して退屈しませんし、時には心に沁みる詩にも出会うことができるので毎回の授業が楽しみです。

2. 生活の状況

二月から一人のルームメイトが新しくなりました。彼女は韓国人です。もう一人のルームメイトのモロッコ人も合わせて、私たち三人はとても仲が良いのでいつも一緒に居間でくつろいでいます。その日にあった出来事やお互いの国の文化について語り合うのは楽しいです。私たちのスペイン語はまだまだ完璧ではありませんが、政治や宗教、病院や学校などの制度など難しい話題も出てきます。自分と異なる意見に出会って物の見方が変わる体験は刺激的で、たまに衝撃的です。例えば、私はこれまで、「黒人」と呼ぶことは黒人差別だと思っていました。しかし先日黒人の血が入っている友達とそのことについて話していた時、彼は「どうして黒人と呼ぶのを避ける必要があるのか。自分は黒人であることに誇りを持っているからむしろ黒人と呼んでほしい」と言っていました。そのときはショックを受け、恥ずかしくなりましたし深く反省しました。逆に自分の身に置き換えてみると、私は日本人であることに誇りを感じているのかと問われると即答できません。周囲の人に日本人は礼儀正しいから好きと言われたときは誇り高く思いますが、「日本人はおとなしすぎる。もっと自分をアピールするべき」と言われるときはダメ出しを受けたような気分になってしまいます。そもそもどこの民族でもそのような性格は人それぞれであり、礼儀正しくない日本人もいれば自分をアピールできる日本人もいっぱいいます。何をもって民族的誇りを感じるのかという問題はとても複雑だと感じました。

英語の翻訳の授業でペアになった生徒がイギリス人なのですが、彼女は日本にとっても興味があり、さらに私はちょうど、スペイン語ばかりに集中して英語を疎かにしたくないと思っていたところだったので週に一回を目安にカフェなどで気楽な形で語学交流をすることになりました。サラマンカでは、アジア学科の学生でなくても日本に興味がある人が多く、驚いています。英語に関しては、私は小さい頃からたくさん言語を操る人に憧れていたもので、本当にまだまだスペイン語も英語も未熟ですが、少しずつその憧れに近づいていけたらいいなと思っています。つまり、一つの言語を習得しても今まで身につけた言語を忘れないということです。頭のスイッチを切り替えるのがとても大変ですが、練習をこなして自分の理想とする姿を目指し続けたいと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/03/01～2018/03/31)

1. 勉学の状況

今一番楽しいお気に入りの授業は英語の視覚資料の翻訳の授業です。セメスターを通して前半は主に映像にスペイン語の字幕を付ける作業、後半はスペイン語の吹き替えを自分たちで行う予定なのですが、字幕を付ける際にはパソコンのアプリケーションを使います。自分たちで俳優の口の動きなどに合わせて各字幕の範囲を定め、その後翻訳した内容を打っていくと、リアルタイムで映像に文字が付いていくので、それを見ると字幕を付けている実感が湧いて楽しいです。常に三人でのグループワークなのですが、始めの頃は誰かが全く仕事をしないので二人だけで作業した結果 10 時間ほど完成に費やしたり、また誰かにグループ代表として提出をお願いしたのに締め切り後に提出したので教授からの評価の際にグループ全体として減点されてしまったりとイライラしてしまうことがありました。でもおかげで今では、人に「こう動いてほしい」と思ったときには早めに、具体的に、重要性を持たせて話をする癖がつかえました。例えば、何日の何時が締め切りで教授は時間に厳格なので、前日中に完成させてしまおうと言い、積極的に彼らにリマインドしながら働きかけるようにしています。前からスペインにはマイペースな人が多いと分かっていましたが、このようにうまく付き合う方法を見つけたり、課題以外の重要性のないときには私も一緒にマイペースになったりしてやっています。

文献学部のマスターによる文法の授業は、少しレベルが高めですが会話が中心でそれを鍛えられるので頑張って参加しています。授業中、ディベートを行うときもありました。相手の言いたいことを理解しとっさに反論するというのは日本語でも私にとっては難しいので、スペイン語だともっと難しいです。ようやく言いたいことを見つけても、息継ぎさえせずに相手を圧倒させるマシンガントークを繰り返す外国人に反論するのは少し怖気づいてしまいましたが、早いうちに彼らと堂々と渡り合えるようになりたいです。

2. 生活の状況

気づくと、帰国まで三か月ほどとなっていました。今まで過ごした数か月があっという間に感じられ、これからの三か月はもっとあっという間なのだろうと思うと、もうすでにサラマンカを去ることに對して寂しくなってしまう。終わりが見えてきたからこそ、今まで以上に時間を大切にしながらさらに日々を充実させたいと思います。

三月に入り、日本では私と同じ学年の三年生は一斉に就活を始めたので私もできることはやってみようと思い、情報収集やプレエントリーなどをしてみました。しかし大学の授業と課題と語学学校と友達付き合いと旅行と、どれもおそろかにしたくない私にとってはその上就活となると両立がほぼ不可能に思えてしまいました。そのとき日本にいる家族や友人と電話し、卒業を一年

延ばすという手もあるし、何より今スペインにいることを最大限活用して今しかできないことをやったほうが良いというアドバイスをもらいました。最近友達に誘われても就活のことを考えると外出する気分がなく、誘いを断ったり早めに帰宅したりしていましたが、また遊びの面も再開させようと思っているところです。友人との時間では、俗語など本当に使われているスペイン語を学ぶことができますし、何より楽しいので本当に大切な時間です。

今月も一度体調を崩してしまい、本調子ではない日々が続いたので、どんなに忙しくても体調管理は忘れないようにしたいと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/04/01～2018/04/30)

1. 勉学の状況

英語の翻訳の授業は、パソコンのソフトを使用して実践的な練習が毎回あり、指示も細かいため、教授の話を中心して聞いていました。そのため今では理論が理解できていて、授業中教授に当てられても答えられるようになりました。内容が分かって授業を聞くのと分からずに授業にいるのでは大分違うので、理解できていることに喜びを感じながら最近では授業に参加しています。

内容が分からない授業と言えば、哲学の授業です。日本で高校生のときに一度勉強した事柄のはずなのに、新しく学ぶことがとてもたくさんあります。もう来月にはテストを控えているので、分からない箇所を放置せずに、その都度教授や友達に質問して、テスト前に焦ることのないようにしたいと思っています。

聴講として参加している日本語の翻訳の授業は、いつもレベルがとても高いです。最近では、エッセイのジャンルの小説を訳したり、ある会社の従業員向けの新サービスの案内の書類を訳したりしました。授業中には日本語のニュアンスや文化、文の意味をネイティブ目線で説明する機会がたくさんあるので、予習の段階で「ここはスペイン人に引っ掛かりそうだな」と感じた部分は予め説明を考えておくようにしています。このように、授業中だけでなく、自宅での学習もこれまで以上に能動的になったと感じています。それは、授業中に自分の意見を述べる機会がたくさんあるからだと思います。私がこれまで日本で参加していた授業と比べると、スペイン人は全員が当事者意識をもって授業に臨んでいますし、分からないことや反論があれば手を挙げてその場で教授に指摘します。それを見ていて、私は日本でこれまでいかに受け身に授業を受けていたのか思い知らされました。そしてそんな私が、人目を気にせずに授業中発言できるようになったのは進歩ではないかと思っています。

2. 生活の状況

今月末には、文献学部のお祭りが一週間ほど続きました。私は厳密には翻訳学部には所属していませんが、文献学部の授業も二つ取っており、アジア学科に友人もたくさんいるため、そのお祭りに参加しました。サラマンカではよく、仮装して踊ったり騒いだりしながら歩いている大学生の集団をよく見かけますが、今回は私とその立場になりました。友達とはしゃいで町を歩いて、とても楽しい日でした。私をいつもイベントに誘ってくれるスペイン人などの友達にとっても感謝していますし、彼らと話すなかで身に着いた語学力のおかげで、スペインに来た当初に抱いていた「言いたいことをすべて伝えられない」という言葉の壁による消化不良な気持ちがなくなりました。友達とはこれまで以上に政治や宗教など複雑な話もしますし、サラマンカ以外の地域出身の人のスペイン語も集中すれば聞き取れるようになりました。日本語の場合と同じように、一瞬間

いて理解できなかったフレーズを、無意識に頭で考えて自分が知っている表現に当てはめ、補いながら理解しているのだと思います。あと二か月で日本に帰ってしまうのがもったいないくらい、自分の語学力は確実に成長したと思います。ただ、現状で満足することなく、どこまでも成長するために、今はボキャブラリーを増やすことを課題として意識しています。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/05/01～2018/05/31)

1. 勉学の状況

5月下旬からはテスト期間に入りました。今回こそは早めに復習に取り掛かろうと決めていたのですが、友達と出かける日が多くて思いのほか勉強が進まず、結局直前になってから焦った教科もありました。今現在二つのテストが終了しています。英語の翻訳の授業は、実践的な授業で毎回楽しく参加していました。そのため、筆記試験でしたが実践的な事柄を問う問題については、これまでの授業で扱ったことを理解していますというアピールが教授に出来たかなと思います。辞書の持ち込みは不可能でしたが、辞書を引きたいと思った場面は一回しかなく、自分の持っている語彙でほぼ満足に説明を書けたことを嬉しく思います。哲学のテストは、準備から大変でした。教授が授業で使ったパワーポイントを studium (千葉大で言う moodle)に上げると仰っていたのにテスト当日まで上がらず、資料は自分たちのノートのみで勉強しました。その際、スペイン人の友達が彼らの授業ノートを私に見せてくれたのでとても助かりました。毎日彼らと学部の近くのカフェに集まって、大事なポイントを確認したり、問題を予想して練習し合ったりしました。また、サラマンカ大は千葉大のように総合大学であるため、同じ授業は取っていませんが哲学学部の友達にも助けを借りて、必死に勉強しました。ところが、教授は 20 分程度の簡単な試験にすると仰っていたのですが本番は 1 時間かかる難しい問題ばかりが出題されたので、テスト終了後はスペイン人の友達と一緒に嘆きました。どうにか合格点が取れていることを願うばかりです。

2. 生活の状況

今年のサラマンカの天気は珍しく、もう 6 月なのに雷雨の天気が多く、みんなで驚いています。春の初めの天気の良い日にランニングをしたり川辺でバレーボールをしたりした日々が恋しいです。

今月は、サラマンカにある日西文化センターという所から声をかけていただき、「日本週間」というイベントの一つに参加してきました。文化交流が目的のもので、スペイン人がまず初めに私たちにチーズの 7 種類の切り方を教えてくれました。試食もさせていただき、全く同じチーズなのに切り方が変わるだけで味が全然違うことに驚きました。お返しに私たちは折り紙や風呂敷を披露してきました。日本に興味を持ってくれる人が多く、誇らしい気持ちでした。

サラマンカを去るまであとわずかですが、正直まだ実感がありません、というのも、まだ大事なテストが残っており、お別れのことを考える余裕が無いからです。予想はしていましたが、本当に早く月日が過ぎたのは、毎日が充実していたからだと言ったことがで

きます。ずっとこのままサラマンカに居たいと思える大きな理由は、いつも私の周りにいてくれる友達のおかげです。彼らに出会えて幸運だとも思います。